

「手ぶくろを買いた」

やさしいお母さん

山王小学校二年

岡本 送 おかもと はるか

母さんぎつねは、なぜ、自分があぶないけ
いけんをしたところに、子どもを一人で行か
せたのでしよう。あたしのお母さんだつたら、
あたしを一人では行かせないと思います。お
たしかおとなになつて親になつても、自分が
こわい思いをしたところにぜつたいに一人で
は行かせたくありません。あたしはどうして

だろうと考えてみました。母さんぎつねは、
子どもをまもりたいという思いよりも、もう
二どとこわい思いをしたくないという気もち
の方が強かつたのかなと思ひました。そう考
えるとき、あたしは、子ぎつねがかあいなそくに
思えてきました。でも、もつといつくり考え
たら、こんな答えも出てきました。どうぶつ
は、人間より早く親とはなれなくてはいけま
せん。そのため、子ぎつねが自分の力で生き
ていけるように、こわいところへも行かせた

のだと。わたしのお母さんも、わたしがりっぱなおとなになれるようにいろいろなことを教えてくれたり、あるところをちやういしてくれたりするやさしいお母さんです。

子ぎつねは、自分の手をさし出しましたが、こわい思いをしないでぶいに手ぶくろを買うことができませんでした。そして、その帰り道に歌を聞きました。それは、人間のお母さんの声にちがいないと子ぎつねは思いました。なぜなら、子ぎつねがねむる時も、お母さんが同

いようなやさしい声でゆすぶってくれるからです。

人間のお母さんも、きつねのお母さんも、おが子を思ふ気もちは同じなんだと思います。子どもを大切にしているお母さんの気もちが、つたわり、心があたたかくなりました。わたしもお母さんやお父さんに大切にされていると思うので、親をこまらせたり、かなしませたりしないようにとあらためて思いました。